森林ふれあい教室を取り組んで
（その成果と課題）

宮城北部森林管理署　○　森林ふれあい係　大友良三
流域管理調整官　鈴木邦雄

1、はじめに

国有野事業は、これまでの木材生産機能に重点をおいたものから公益的機能を重視する施業へと方向転換し、国民に開かれた、より身近な国有林を目指して様々な事業を展開することになった。この方針のもとに森林管理署においても、森林ふれあい係が新たに設置され具体的に業務を取り組むことになった。しかし、はじめての業務であり、どのように取り組んでいけばよいのか大きな課題となっている。そんな中、当署においてはその業務の一つとして「森林ふれあい教室」を取り組んできたので、その成果と教訓を発表する。

2、取り組み方法および経過

(1)　企画に当たっての基本的考え方

森林ふれあい業務は、これまで経験のないものでもあり、森林ふれあい教室を開催するに当たって、どの様な視点で行うかがまず問題となった。

表１

企画に当たっての基本的考え方
多くの市民が気軽に参加し楽しく森林に親しむ
①　森林・林業の知識を普及する
②　森林・林業と人間生活との関係を理解してもらう
③　国有林のＰＲ

そこで検討した結果、多数の市民が気軽に参加でき楽しく森林に親しむことを基本とし、①森林及び林業の知識を普及する。②森林・林業と人間生活との関わりを理解してもらう。③国有林のＰＲ。の３点を森林ふれあい教室の目的とした。

具体的に企画する際にはまず、いかに参加者を集めるかが課題となり、そのためには一般的に知られている管内の景勝地や関心の高い内容を主に行事を組み、それに目的を組み合わせる方法で企画をおこなった。その際、単なる自然観察会や観光案内とならないようにすること、また、目的のみを追求すると関心が低くなり参加者が集まらなくなることにも注意し企画した。

(2)企画に当たっての具体的なねらい

企画に当たっての具体的なねらいは、表２のとおりだがここでは平成１２年２月の行事④から説明する。

④は輪かんじきで雪山を歩く体験をしながら木の冬芽や森の動物の足跡などの観察と枝打ち作業の体験をしてもらう。（写真１）

表2　企画の課題とねらい

開催 年月日	課　　題	企画のねらい
H11 6.25	①ニッコウキスゲとブナ林	択伐したブナ林を見る 湿原観察
9.22	②森の色で染める	植物と人との関わり 里山観察
12. 8	③リースを作ろう	植物の種や蔓の観察 森林と人との関わり
H12 2.19	④かんじきを履いて雪山に入ろう （輪かんじきで雪山ウォッチング）	枝打ち体験 森林と動物の関係
4.15	⑤春の雑木林を歩く （キノコのホダ木作り体験）	ホダ木作り体験 里山観察
6.29	⑥ニッコウキスゲとブナ林 （世界谷地とその周辺）	択伐したブナ林を見る 湿原観察
8.23	⑦白糸の滝と森づくり体験 （森林浴と下刈り体験）	下刈り体験 ブナ林観察
9.21	⑧森の色で染める （草木染と森林浴）	植物と人との関わり 里山観察
12.11	⑨森の恵でリースを作る	植物の種や蔓の観察 森林と人との関わり

⑤は春の雑木林を歩きカタクリなどの春植物の観察と、雑木林を利用してホダ木作りを体験し、ホダ木は持ち帰ってもらう。（写真2）

⑥は宮城で有名な世界谷地湿原のニッコウキスゲを観察し、隣接する択伐したブナ林の更新状況を見てもらい、国有林の施業を理解してもらう。（写真3）

⑦は管内で有名な滝までの天然林の観察と、下刈り作業を体験してもらう（写真4）

⑧は昔から利用されてきた雑木林（二次林）の観察と身近にある材料で草木染を体験

しながら自然と人と暮らしの関わりを理解してもらう。（写真５）

⑨はクリスマスのリース作りを通して人と森林の関わりを理解してもらうとともに、造林地に入って材料を取り、材料の様々な植物の種子について学習してもらう。（写真６）

ことなどを企画に当たってのねらいとして実施した。

(3) 具体的な実施方法

具体的な実施方法については表３に示したとおりだが、

募集方法は、年間を通じての参加者を会員方式で募集する方法が参加者を集めやすいと考えたが、国有林のＰＲも兼ねて行事の都度行うこととし、各新聞社の行事お知らせ欄に掲載してもらっておこなった。

また署の体制は、森林ふれあい係が主査となり、森林教室及び案内を行い、毎回署長による講話を３０分程度取り入れて、目的とする内容を中心に参加者に話をすることとした。流域管理調整官は安全対策を主に担当し、内容によって現場からの応援をもらい５～１０名程度で実施した。

表３

具体的な実施方法

募集人員	２５名	バス定員及び１名で案内できる人数
募集方法	開催都度	各新聞の行事案内欄に掲載　円　人　円
会　費	２，０００円	バス代、傷害保険料等　2,000×25 =50,000
		経費（概算）貸切りバス　４７，２５０円
		傷害保険料　２，６５０円
		計　４９，９００円
開催日	平日開催	署の体制を作るため
署の体制	森林ふれあい係	主査・案内
	署長	講話　３０分
	流域管理調整官	安全担当・記録
	基幹作業職員	作業指導・安全

３、取り組みの現状

(1) 実施状況

実施状況は表４のとおりだが、

Ｈ１１年度は４回実施し総参加者数７１名、Ｈ１２年度は５回実施で総参加者数は１０５名、一回平均２０名の参加だった。参加者を地域別に見れば、管内１１３名、管外６３名で、年齢は主に５０～６０歳代で男女比率３：７だった。

(2) アンケート調査の結果

参加者の意識状況を把握するためにアンケート調査（参加者２０名のうち１７名から回答を得た）を行った。

表4　森林ふれあい教室の実施状況

開催年月日	課　　題	参加人数	管内外別		男女別		署体制	
			管内	管外	男	女	定員内	基職
H11 6.25	①ニッコウキスゲとブナ林	20	8	12	5	15	4	
9,22	②森の色で染める	20	9	11	3	17	5	1
12. 8	③リースを作ろう	10	10	0	0	10	4	
H12 2.19	④かんじきを履いて雪山に入ろう（輪かんじきで雪山ウォッチング）	21	13	8	11	10	5	1
4.15	⑤春の雑木林を歩く（キノコのホダ木作り体験）	23	10	13	11	12	4	2
6.29	⑥ニッコウキスゲとブナ林（世界谷地とその周辺）	25	21	4	8	17	3	2
8.23	⑦白糸の滝と森づくり体験（森林浴と下刈り体験）	22	17	5	9	13	4	6
9.21	⑧森の色で染める（草木染と森林浴）	20	13	7	4	16	3	3
12.11	⑨森の恵でリースを作る	15	12	3	2	13	4	3
	計	176	113	63	53	123	36	18

その結果、参加した動機及び何を期待して参加したかについては、「自然に親しみたい自然を知りたい、」と言う回答が最も多かった。国有林のことについては、参加者のほとんどが国有林の実態を知らなかったが、「自然を守る役割を期待している。」といった回答も数多くあった。

(3) 取り組みの成果

参加者の感想は、「国有林を身近に感じることができた、もっと親しみたい。」「国有林野事業の重要性に少しでも触れることができてよかった。」また、「森林がこのような大変な作業によって守られ、育てられていることが初めてわかった。」といった感想が多く聞かれた。中には、「住宅を国産材で新築したいのでどこに相談すればよいのか。」「自分の造林地の手入れをしたい、用具をどこで購入できるか。」といった相談も寄せられている。その結果、「次回も参加したいので是非案内をほしい」という参加者が多くでるようになった。

また、署としても多くの教訓を得ることができた。一般市民に対しては専門用語を排して理解しやすい言葉で話をする、ということ、下刈り作業などの林業体験を行う場合安全確保のために事前踏査を十分行うこと、及び災害が起こった場合の対応方法などの事である。

4、今後の課題

これまでの取り組みの結果、次のような課題が見えてきた。

表5

今後の課題

1、インストラクターの養成と確保
　複数の配置できるよう育成
　地域からの要請に答える
2、プログラムの充実と開発
　ネイチャークラフトを取り入れる等内容充実
　子供たちを対象にしたプログラム開発
3、フィールドの整備と充実
　森林・林業教育の視点での整備
　休憩所、トイレ、駐車場の整備
4、安全の確保
　災害発生時のマニュアル作成

(1) インストラクターの養成と確保

これまでのイベントは森林ふれあい係が主になっておこなってきたが地域からの要請も増加して行事が重複したりしており、目的に沿った案内できる者を複数養成することが急務となっている。

(2) プログラムの充実と開発

プログラムについてはこれまでの企画も概ね好評だが、更にネイチャークラフトも取り入れる等内容を充実させる必要がある。また子供たちを対象にしたプログラムも開発したいと考えている。

(3) フィールドの整備と充実

これまで取り組みを行ってきて特に感じたのは、目的にあった企画を検討する際にフィールドの整備が不十分である、ということである。これまで、森林・林業教育の場という観点から整備されたフィールドは少なく、国有林内の歩道などは保育作業等のためのものであり、一般市民が気軽に歩けるものが少ない、様々な体験ができるフィールドがあってもそこまでのアクセスがない、等の問題が多くあった。一般市民が気軽に参加できるフィールドを早急に整備する必要がある。更には、ネックとなるのが休憩所やトイレ等の適当な施設が少ないことである。現在は地域の集会所等を利用

して開催してるが、必ずしも充分ではなく、特にトイレと駐車場を整備する必要があると思われる。

(4) 安全の確保

昨年行った林業体験の下刈り作業中に参加者のハチ刺され災害が発生した。幸い、大事には至らなかったが、問題点が改めて浮き彫りになった。林業体験の際には作業の指導を行うと共に安全対策についても指導、助言をしているが今回の場合、事前に作業地全域にわたり、蜂の巣を点検しなかったために災害が発生してしまったと反省している。

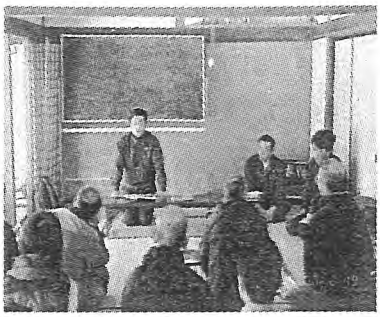
事故が発生して、加入していた傷害保険で対応することになったが、保険はあくまで参加者個人に対してのもので、署としての対応・責任の在り方など整理されておらず、参加者と署の責任と義務などを明確化したマニュアルを早急に作成しなくてはならないと考えている。

5、おわりに

国有林が、公益的機能を重視する施業に方向転換をして2年が経過しようとしている。この間、署としてはこれまで報告したように国民に開かれた、より身近な国有林を目指して取り組みをおこなってきた。しかし、それは試行錯誤の連続であり必ずしも充分なものとはなっていないが、それでも参加された方からの御礼の手紙や「次回を楽しみにしています。」といった声を励みに取り組んできた。これからも更に楽しく親しみの持てる企画を作り、国有林と一般市民の架け橋となる森林ふれあい教室になるよう努力していきたい。

（写真1）　かんじきを履いて雪山へ入ろう（輪かんじきで雪山ｳｫｯﾁﾝｸﾞ）

かんじき歩行も一苦労



署長の講話

雪上での枝打ち体験

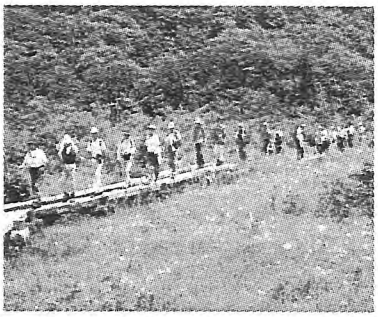
（写真2）　春の雑木林を歩く（きのこのホダ木作り体験）

春の芽吹きを観察

署長の講話

収穫を夢見てホダ木作り

（写真3）　ニッコウキスゲとブナ林（世界谷地とその周辺）

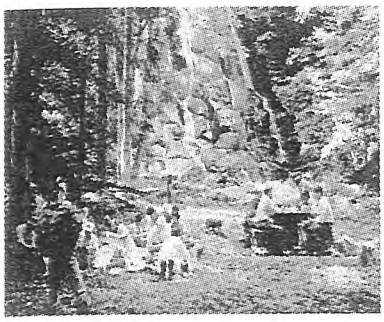


湿　原　観　察

ブナ択伐箇所での署長講話

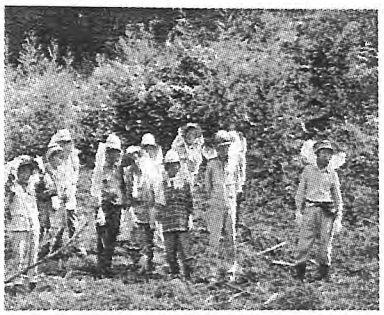
択伐後更新状況の説明

（写真4）　　白糸の滝と森づくり体験（森林浴と下刈体験）



白糸の滝で森林浴

下 刈 体 験



安全作業説明

（写真5）　　森の色で染める（草木染と森林浴）

二次林と樹木観察

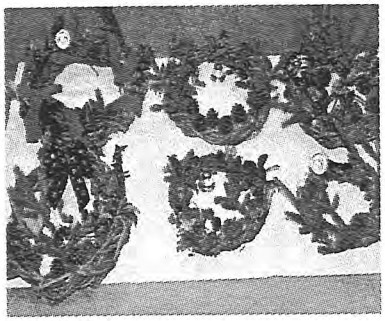
署長の講話

思わぬ色に染めあがった作品

（写真6）　　森の恵みでリースを作る

リース作り

署長の講話



満足した？完成品